



幼穂形成期は予想以上に早まっています
各自で必ず確認してください

J A たきかわ 営農部
空知東部地区農業改良普及センター

カメムシの発生状況 - 多発傾向

表 - 1 カメムシ捕獲状況 (6/28 関係機関調査)

	芦別市	赤平市	滝川市
	畦畔	畦畔	畦畔
H17年	2.2頭	5.2頭	1.9頭
平年値	0.9	0.7	0.5

20回振り
当たり平均
頭数

ドロオイムシ・フタオビコヤガが一部ほ場・地域で多発しています。必要に応じて防除してください。

草刈りしていない畦畔では、カメムシが多発、直ちに畦草刈りを実施し、早めに終了させよう!!

幼穂形成期から予測される前歴期間と冷害危険期

「ほしのゆめ」はほとんどのほ場が幼穂形成期に達しています。自分のほ場の幼穂形成期を品種毎に正確に確認しましょう。

表 - 1 幼穂の伸長からみた幼穂形成期の判定

幼穂形成期後日数	幼穂形成期	1日後	2日後	3日後	4日後	5日後	6日後	7日後	8日後
幼穂長	2mm	3	4	5	13	22	30	43	57

表 - 2 幼穂形成期からみた前歴期間、冷害危険期等の予測(6/28現在)

	幼穂形成期	前歴期間	冷害危険期	止葉期	出穂期
ほしのゆめ	6/26	6/27 ~ 7/6	7/7 ~ 7/14	(7/13)	(7/22)
きらら397	6/28	6/29 ~ 7/8	7/9 ~ 7/16	(7/15)	(7/24)
平年値	6/30	7/1 ~ 7/10	7/11 ~ 7/18	7/17	7/26

(空知東部管内、成苗：5/26 ~ 5/30 移植) 平年値はきらら397

不稔を少なくする深水管理のポイント!!

幼穂の伸長に合わせて、水を徐々に深くし水温で保温することが重要です。
前歴期間は、花粉の数を多くする時期です。水深 10 cm程度にして、水温 25 以上が目標です(割籾も減少)

冷害危険期は、花粉を充実させる時期です。低温時は止め水を前提に水温を高め、可能な限り(最大 20 cm)深水にして幼穂を保護します。

この期間の中干しは絶対に避けましょう。

不稔を抑え、登熟、食味を良くするケイ酸追肥!

ケイ酸資材：粒状ケイカル、粒状ミネカル、ゆめシリカなど
幼穂形成期 7 日後に施用 20 kg / 10a 当たり
例 ~ 幼穂形成期が 6 月 26 日の場合 ケイ酸追肥：7 月 3 日